

令和元年6月27日現在

機関番号：33902

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2014～2018

課題番号：26257509

研究課題名(和文) エチオピア先天異常児の実態調査-いわゆる嬰兒「まびき」撲滅を目指して-

研究課題名(英文) Epidemiological Investigation of Congenital Malformation in Ethiopia

研究代表者

古川 博雄 (FURUKAWA, Hiroo)

愛知学院大学・心身科学部・教授

研究者番号：70291763

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,860,000円

研究成果の概要(和文)：エチオピアでのいわゆる嬰兒の「まびき」を予防することを目的として、現地で調査を行い分析研究を行った。

本研究成果をもとに本症の基礎的な知識が重要であり現地に必要な情報も含めて研究成果公開促進費を得てアムハラ語で「Understanding for care of cleft lip and palate in Ethiopia」を出版した。また、民間より資金を得てアマハラ語のHPやポスターを作成するとともに現地でサポート団体を設立した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

口唇口蓋裂などの障害を持った子供が産後直後にいわゆる嬰兒の「まびき」を防止することの一助となった。

研究成果の概要(英文)：In order to prevent so-called "mabiki" (the killing baby after birth) in Ethiopia, we conducted field surveys, and then conducted analytical research.

Based on the results of this research, we understood that the basic knowledge of this disease is important. We obtained the Grant-in-Aid for Publication of Scientific Research Results, and published a book of "Understanding for care of cleft lip and/or palate in Ethiopia" in Amharic language, including information necessary for the field. In addition, we created a website and posters in Amharic language with funds obtained from the private sector, and also established a humanitarian support group locally.

研究分野：口腔外科学

キーワード：先天異常 エチオピア 口唇裂 口蓋裂 小児人権

## 1. 研究開始当初の背景

1974年軍事革命により王制廃止、1977年からのオガデン紛争、1991年メンギスト政権崩壊、同7月暫定政府成立、1995年現政権エチオピア連邦民主共和国樹立、さらに1998年5月エチオピア・エリトリア国境紛争勃発から2000年エリトリアとの包括的和平合意成立。国内の経済発展と民主化を重視し、新5カ年計画(GTP)達成のために、海外からの技術移転の確保、貿易投資の拡大を推進している。一方で、一人当たりのGNIは310米ドルと最貧国の水準にとどまっており、慢性的な食糧不足に加えて、高度経済成長に伴って生じたインフレや、世界金融不安や原油等の国際価格の上昇に伴う影響が顕在化している。

世界銀行のThe World Bank's Global HIV/AIDS Programによるとエチオピアでは10万人にたった1人の医師、2006年WHOのWorld Health Reportでは2003年時点で1,936人の医師が確認されており10万人に2.6名の医師との報告がある。グローバリゼーションにより、医師も含めたエチオピアの多くの専門知識を持つ人々はよりよい給与を求めて西側諸国に流失したとされ、慢性的な高等専門教育者の不足が挙げられている。

現政権の安定により経済は著しく発展をしてきているが、平均寿命62歳、乳幼児死亡率(1,000人当たり31名(2011年:WHO))と医療の面においては多くの課題が手つかずの状態にあり、エチオピアにおいて本研究を行うことが、極めて重要かつ緊急に必要であると判断した。

## 2. 研究の目的

エチオピアでは経済発展の影で人口の増加に伴い、医師養成の高等教育者・医師不足はより深刻な状態であり、医療制度上のサポートも不十分である。また、政府による厚生行政への支出も少なく、さらに各病院に勤務する医師の年収も極めて低く抑えられ、医学の学問的水準に至っては医学教育が医学の進歩に追いついておらず、極めて問題のある医療者が国民医療を担っている。

特に先天異常児はほとんど放置されており、一部ではいわゆる嬰兒の「まびき」の対象として生命を絶たれている可能性も否定できない。日本では適切な治療を受ければ機能障害がほとんどなく改善できる多くの患者の人道上的救命をするため早期の対策が必要であるため、本申請により実態調査にて詳細を明らかにするとともに、技術移転と初期のシステムの導入が必要と判断し、5年間でこの状況の改善することを目的とする。

## 3. 研究の方法

エチオピアにて5年間にわたり実態調査を現地の医療者ならびに現地の住民を対象に実施した。その結果をもとに先天異常の「まびき」を解消するための戦略を立案する。

## 4. 研究成果

これまで不明であったエチオピアにおける先天性疾患への偏見と認識が明らかになるとともに医療の実態の調査結果に踏まえた対策を外務省NGO連携無償資金協力を申請した。またPanasonic NPOサポートファンド for アフリカにエチオピア先天異常のいわゆる嬰兒「まびき」撲滅を目指した人道援助の広報活動を申請し、Panasonicから予算を得て、アムハラ語によるポスターや小冊子を作成した。研究成果をもとに、日本学術振興会研究成果公開促進費にて「Understanding for care of cleft lip and palate in Ethiopia」を2018年2月に出版した。

研究成果が、下記のように中部地区で一番購読者の多い新聞で報道された。



## 口唇口蓋裂 治ります

**愛知学院大、エチオピアで冊子**

国内外で口唇口蓋裂の治療に取り組み愛知学院大の医師がアフリカ・エチオピアで、患者の治療や育児の方法などを説明した現地語版の冊子を配った。世界最貧国の一つである同国では、現在も病気が障害のある子を出産直後に殺す「間引き」の存在が指摘される。「口唇口蓋裂は治療可能で、健康に育てられることを知らせたい」と啓発に意欲を示す。

執筆したのは、愛知学院大歯学部夏目長門教授(左)。日本口唇口蓋裂協会(名古屋)の常務理事を務め、発展途上国の子どもの治療に無償手術事業で中心的役割を担った。

エチオピアでの事業は十一年前から。その際、現地の医師らから「出生して障害や病気が分かるべく、たまに間引き」が行われると聞かされた。詳しい実態は不明だが、医療水準の低さと将来への不安が背景にあるとみられる。

夏目教授によると、現地の口唇口蓋裂の発症率は、乳児期とその後の修正手術などで、健康な子どもとほとんど変わらない状況まで治る。だが発展途上国では手術の技術が乏しいと指摘された。

エチオピア人向けに発行した口唇口蓋裂治療の啓発冊子

**赤ちゃん「間引き」防止**

冊子を持った医師が少なく、市民の間でも「生治らない」との誤解も根深いと指摘。

冊子は以前、夏目教授らが国内の患者家族の不安を和らげるために出版した本を、知人のアデイスアベバ大の教員にエチオピアの現地語に訳してもらい千部作製。A4判の治療手順などを記した内容のほか、ミルクをあげる際、日本で使われる特殊な哺乳瓶ではなく、スプーンも代用できるなど、現地の現状に沿った方法を紹介している。

口唇口蓋裂協会のメンバーらが一月下旬から十日間、無償手術のために訪れた中部のブタジラの病院などで、患者家族や医師らに配布した。病院の壁には、間引きの防止を訴える啓発ポスターも張った。

夏目教授は「アフリカでは医療体制の不備と、病気の無知が目立つ。現地の医師らに対する技術支援を進めながら、親が安易に間引きを選択しないように呼び掛けた」と話す。

### 5. 主な発表論文等

[学会発表](計 13件)

吉田磨弥, 古川博雄, 鈴木聡, 山内楓子, 井村英人, 新美照幸, 夏目長門: エチオピア連邦民主共和国における先天異常に関する研究-第5報-. 第30回日本小児口腔外科学会総会・学術大会(川越), 2018.11.24.

Hideto Imura, Hiroo Furukawa, Satoshi Suzuki, Toko Hayakawa, Maya Yoshida, Fuku Yamauchi, Kazuhide Nishihara, Akira Arasaki, Nagato Natsume: Survey about baby's "thinning" of cleft lip and palate patients in Ethiopia. 12th World Congress of the International Cleft Lip and Palate Foundation (Leipzig, Germany), 2018.4.20

Nagato Natsume, Hideto Imura, Toko Hayakawa, Kazuhide Nishihara, Akira Arasaki, Fuku Yamauchi, Maya Yoshida, Satoshi Suzuki, Naoki Takahashi, Toshiro Kibe, Duy Tran Le, Hiroo Furukawa: Importance of medical assistance and research in the African continent -Medical cooperation and academic research for cleft lip and palate in the Federal Democratic Republic of Ethiopia-. 12th World Congress of the International Cleft Lip and Palate Foundation (Leipzig, Germany), 2018.4.19.

古川博雄, 鈴木聡, 吉田磨弥, 山内楓子, 井村英人, 新美照幸, 夏目長門: エチオピア連邦民主共和国における先天異常に関する研究 -第4報-. 第29回一般社団法人日本小児口腔外科学会総会・学術大会(新潟), 2017.11.18.

Hideto Imura, Hiroo Furukawa, Satoshi Suzuki, Maya Yoshida, Fuko Yamauchi, Kazuhide Nishihara, Toko Hayakawa, Akira Arasaki, Nagato Natsume: Research about congenital anomalies in Ethiopia. 11th World Cleft Lip/Palate and Craniofacial Congress (Wuhan, China), 2017.11.12.

Nagato Natsume, Hideto Imura, Toko Hayakawa, Hiroo Furukawa, Kazuhide Nishihara, Akira Arasaki, Fuko Yamauchi, Sadamichi Matsumoto: Medical mission trips, establishing the honorary consulate and research study for cleft lip and palate in Ethiopia. 11th World Cleft Lip/Palate and Craniofacial Congress (Wuhan, China), 2017.11.12.

古川博雄, 鈴木聡, 吉田磨弥, 山内楓子, 井村英人, 西原一秀, 夏目長門: エチオピア連邦民主共和国における先天異常に関する研究 第 3 報 . 第 57 回日本先天異常学会学術集会(東京), 2017.8.27.

西原一秀, 又吉亮, 古波蔵大祐, 長島勇毅, 古川博雄, 夏目長門, 新崎章: エチオピア連邦民主共和国における口唇口蓋裂医療援助. 歯科保健医療国際協力協議会第 27 回総会及び学術集会(沖縄), 2016.7.3.

古川博雄, 井村英人, 大野磨弥, 山内楓子, 夏目長門: エチオピア連邦民主共和国における先天異常に関する研究-第 2 報-. 第 40 回日本口蓋裂学会総会学術集会(大阪), 2016.5.27.

Nishihara K, Kibe T, Takahashi N, Matsunaga K, Ishihata K, Fuchigami T, Ono M, Yamauchi F, Nagashima K, Matayoshi A, Furukawa H, Natsume N, Nakamura N, Arasaki A: A Charitable Activity for Cleft Lip and Palate in Ethiopia. 9th World Congress of the International Cleft Lip and Palate Foundation (Moscow), 2015.8.31-9.4.

山内楓子, 新崎章, 西原一秀, 又吉亮, 長島有毅, 岐部俊郎, 高橋直樹, 大野磨弥, 古川博雄, 夏目長門: エチオピア民主共和国での学術調査報告 2014 年度. 歯科保健医療国際協力協議会第 26 回総会及び学術集会(千葉), 2015.7.5.

古川博雄, 井村英人, 大野磨弥, 山内楓子, 西原一秀, 中村典史, 新崎章, 夏目長門: エチオピア連邦民主共和国における先天異常に関する研究 第 1 報 口唇口蓋裂治療の実態 . 第 39 回日本口蓋裂学会総会学術集会(東京), 2015.5.21-22.

西原一秀, 岐部俊郎, 松永和秀, 石畑清秀, 淵上貴央, 高橋直樹, 古川博雄, 中村典史, 夏目長門, 新崎章: エチオピア連邦共和国における口唇口蓋裂医療援助活動. 第 39 回日本口蓋裂学会総会学術集会(東京), 2015.5.21-22.

[図書](計 1 件)

Nagato Natsume: Understanding for care of cleft lip and palate in Ethiopia. Neo Medix (Nagoya), 2018.2.

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名: 夏目長門

ローマ字氏名: NATSUME, Nagato

所属研究機関名: 愛知学院大学

部局名: 歯学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 90183532

(2)研究協力者

研究協力者氏名：大谷 浩  
ローマ字氏名：OTANI, Hiroki  
研究協力者氏名：中村 典史  
ローマ字氏名：NAKAMURA, Norifumi  
研究協力者氏名：新崎 章  
ローマ字氏名：ARASAKI, Akira  
研究協力者氏名：飯野 光喜  
ローマ字氏名：IINO, Mitsuyoshi  
研究協力者氏名：西原 一秀  
ローマ字氏名：NISHIHARA, Kazuhide  
研究協力者氏名：田中 貴信  
ローマ字氏名：TANAKA, Yoshinobu  
研究協力者氏名：服部 正巳  
ローマ字氏名：HATTORI, Masami  
研究協力者氏名：前田 初彦  
ローマ字氏名：MAEDA, Hatsuhiko  
研究協力者氏名：池田 やよい  
ローマ字氏名：IKEDA, Yayoi  
研究協力者氏名：嶋崎 義浩  
ローマ字氏名：SHIMAZAKI, Yoshihiro  
研究協力者氏名：中村 好徳  
ローマ字氏名：NAKAMURA, Yoshinori  
研究協力者氏名：新美 照幸  
ローマ字氏名：NIIMI, Teruyuki  
研究協力者氏名：南 克浩  
ローマ字氏名：MINAMI, Katsuhiko  
研究協力者氏名：井村 英人  
ローマ字氏名：IMURA, Hideto  
研究協力者氏名：早川 統子  
ローマ字氏名：HAYAKAWA, Toko  
研究協力者氏名：加藤 大貴  
ローマ字氏名：KATO, Tomoki  
研究協力者氏名：鈴木 聡  
ローマ字氏名：SUZUKI, Satoshi  
研究協力者氏名：吉田 磨弥  
ローマ字氏名：YOSHIDA, Maya  
研究協力者氏名：紅 順子  
ローマ字氏名：AKASHI, Junko  
研究協力者氏名：赤塚 麻里  
ローマ字氏名：AKATSUKA, Mari  
研究協力者氏名：山内 楓子  
ローマ字氏名：YAMAUCHI, Fuko  
研究協力者氏名：速水 佳世  
ローマ字氏名：HAYAMI, Kayo  
研究協力者氏名：森 明弘  
ローマ字氏名：MORI, Akihiro  
研究協力者氏名：Tran Le Duy